

# リンクスの 事業再生現場

## レポート 第43回



(株) リンクス

宇都宮市西一の沢町8-22 栃木県林業会館5F  
TEL: 028-634-5088  
Mail: info@rincs.biz  
URL: http://www.rincs.biz/

### 【債務免除とモラルハザード】

今から5年前の平成20年3月、足利銀行不良債権処理終結のために、簿価599億円を整理回収機構に売却するとの新聞報道がありました。今回は、その中の1社の事例を紹介します。

A社は、従業員5名の零細企業です。業種等詳細は伏せますが、バブル期に購入した土地1億円の債務が重く、また、業績も赤字が継続していました。銀行返済は少額弁済を数年間続けていましたが、財務内容が重症なことから、債権売却の対象先となったようです。弊社と出会ったのは、債権が売却された直後のことで、廃業も考えていたそうです。しかし、地域からの信頼も厚い会社であり、また、数十年に渡る業歴を閉ざしてはいけないという気持ちから、再建へ向けて一歩を踏み出すこととなりました。

早速、新しい債権者から弁済計画の提出を求められましたが、そもそも事業からの弁済は非常に厳しい状況ですので、言われるままの返済を続けていって、資金繰りは破綻です。しかし、返済しなければ不動産の競売もあり得ます。それぞれの担保毎の資金化策を検討し、債権者に弁済計画を提出しました。過剰債務の根本原因である土地については、購入以来、未利用の状態であり、分譲業者に売却する方針としました。社長さんにとっては思い入れの強い土地であり、手放すのは心苦しかったのですが、自らが血を流さなければ再建は出来ません。今後の事業に必要なものは残し、優先順位の低いものは処分しなければなりません。

問題は本社です。本社は調整区域の築30年の物件で、評価額は約1千万円です。事業の継続には本社は手放せません。しかし、手持ち資金がありませんので、社長さんの知人が経営するB社にスポンサーを依頼することになりました。幸い、B社のメインバンクからの協力を得られ、賃収物件としてB社は融資を受け、A社は引き続き本社として残すことが出来たのです。そして、残った債務については、債権譲渡から5年後の今年、数千万円の債務を免除していただきました。晴れて無借金となったのです。

5年前、足利銀行の債権譲渡の対象とならなければ、過剰債務を抱えたまま、リスケジュールを繰り返していたはずで、金利負担から資金繰りに行き詰まったかもしれません。債務の問題を解決したことにより、モチベーションも確実に上がり、売上も徐々に上がってきています。

債務免除は事業再生の特効薬です。しかし、一方では、モラルハザードとの意見もあり、現状は金融機関のハードルは相当高い状況です。本来淘汰されるべき企業が生き残ることへの批判は、逆の立場から見れば当然だと思います。

しかし、私は、一律にモラルハザードと一括りにして、事業を閉ざさせてしまうことは、地域経済にとってマイナスと考えています。そういった状況に陥った原因と、その企業の社会的役割を見極めたうえでの判断が必要です。リスケジュールの次の施策として参考になればと思います。紹介させていただきました。



#### 〈著者プロフィール〉

代表取締役社長 佐藤 正人

昭和37年生まれ、大田原高校、新潟大学卒。

昭和60年足利銀行へ入行後、営業店、審査部門を経て平成16年退社。

在職中の事業再生の経験を活かし、平成18年栃木県で初めての事業再生専門のコンサルティング会社である(株)リンクスを設立し代表者に就任。以来地元中小企業の多くの事業再生を行っている。